

おしらせ

お悔み

飯島 喜久子氏(令和2年12月15日逝去 享年89歳・ゆーあい工房保護者)

ご冥福をお祈り申し上げます

寄付金

中村美知子氏(中村製材所社長)

誠にありがとうございました



生活介護メンバー作
干支のちぎれ絵



社会福祉法人うまぐりの里
法人本部、障害福祉サービス事業所ゆーあい工房
相談支援事業所めだか

〒328-0033 栃木市城内町2-62-14
TEL 0282-25-4001
Fax 0282-25-1575
E-mail yu-aikoubou@cc9.ne.jp
ホームページURL: <http://www.cc9.ne.jp/~yu-aikoubou/>

共同生活援助事業所なごみの家
〒329-4412 栃木市大平町北武井655-3
TEL・Fax 0282-21-7800

●編集後記●

新型コロナで暮れた令和2年でしたが、新年5年は、どうか明るく平穏な年となることを願っております。

関係各位、暖かな春を待ちながら、どうぞお健やかに過ごしてください。

ひだまり第5号の発行にあたり、ご協力いただいた皆さまに感謝申し上げます。

●編集スタッフ●

うまぐりの里常務理事 中村君枝
ゆーあい工房主任 川又正久
ゆーあい工房支援員 渡邊啓之
ゆーあい工房支援員 赤堀美穂

ひだまり

第5号

もお〜っといい年になりますように

理事長あいさつ

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、御家族共々お健やかに新年をお迎え出来た事とお慶び申し上げます。

さて、昨年は「新型コロナウイルス禍」のために、国内はもちろん諸外国においても、私達の生活に直結する経済活動等に大きな支障がありました。

私達の「ゆーあい工房・なごみの家」も同様に各種事業等が中止又は延期となりましたが、利用者・保護者の御理解・御協力を頂き、職員の創意工夫を凝らした内容変更等により、運動会やクリスマス会等が実施出来た事に厚く感謝申し上げます。

しかし、市内外の各種催事等が中止になり、木工製品・菓子類等の販売が大きく減少し、利用者への作業手当支給額が減額されました事は誠に残念な結果となりました。

今年は、延期された「オリンピック・パラリンピック」の開催が予定されておりますが、これも「コロナ禍」が収束する事態を期待しての開催となるのではないのでしょうか。いずれにしても、早い時期に「コロナ禍」が収束し、元通りの生活環境に戻ってほしいものです。

令和3年は、大きな自然災害がなく、平和で安全な市民生活が楽しめる年でありますよう祈願すると共に、心身に障害があってもなくても、誰もが自由で平和な生活を営める社会が築かれるよう期待しております。

理事長 岩川 和男

保護者会長あいさつ

明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、幸多き新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。

また、日頃から法人関係者の皆様には、保護者会の活動に対しまして多大なるご協力とご理解を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は新型コロナウイルスの感染拡大で、保護者会の活動もほとんどが中止となってしまい、仲間のみならず楽しく過ごす行事が無くなってしまったことをすごく残念に思っております。今年はなんとか例年のように各種行事を開催して、仲間の楽しそうな笑顔が見られるようになることを期待しています。

末筆になりましたが、法人の益々のご発展と関係各位のご健勝、ご多幸をお祈りして新年のご挨拶とさせていただきます。

ゆーあい工房保護者会会長 佐野 義晴

活動紹介コーナー(生活介護・木工作业・菓子作業より)

新商品ができました！

この度、生活介護から新しく新商品ができました。とち介のマスクに引き続き、第2弾は今、大変需要の高い「エコバック」です。大人気の「とち介」商品ですが、そこに「さのまる」が仲間入りし、昔ながらのかわいいあずま袋型バックにどんどん染めをしました。サイズはMとLの2種類です。

「とち介」と「さのまる」のかわいさに癒されながら、仲間たちと、どんどん染めに奮闘しています。しかし、縫製が技術的にも時間的にも難しく、どうしようと悩みました。そこで、栃木市内の施設に頼んでみてはどうかと「わらしべの里・わらしべの家」と「あゆみ園・めぐみ」さんにお話をしたところ、快く引き受けて下さり、新たなコラボレーションが決まりました。

今回もたくさんの方たちのご協力に支えられ、また1つ商品ができたことに大変うれしく、ありがたいと思います。これからも、工房の商品を通してたくさんの方たちと繋がり、広がっていくことを願って今日もがんばってお仕事に励みたいと思います。



生活支援員 赤堀 美穂

木工室からCongratulations！

木工作业では、毎年秋になると、栃木市の新成人へ贈る記念品の写真立て製作が始まります。『今日は〇個完了』とレ点チェックを入れながら、目まぐるしく製作に追われる日も多く「もう見たくない」という気持ちになる事もしばしば。栃木市障害者福祉協議会加盟施設にもラッピング作業にご協力頂き、約1,600個ほどの写真立てが栃木市の各支所に納品されます。

毎年大変ではありますが、もう5年以上この仕事を頂いており、実習生等から「これ、持っています！」との声を聞くと、とても嬉しくなります。晴れ着姿や仲間との楽しい写真をこの写真立てに入れて飾るのかなど想像しながら、今年度も製作を進めているところです。前回ご紹介した結婚祝いや出生祝いの写真立てを含め、栃木市の皆さんの思い出のそばに、ゆーあい工房の製品がある事を誇りに思いながら、仲間と共に日々製品作りに励んでいます。



生活支援員 大久保美穂

おいしい菓子商品をみなさまへ

毎朝、菓子工房にはパンのいい香りがひろがっています。工房では毎日、約15種類のパンを平均すると200個くらい焼いています。注文の量が多い時は、利用者さんも大忙しです。でも忙しいのはうれしい悩みで、みんなの顔はいきいきとしています。注文の多い日は、チームワークが絶対で、当たり前みんなが協力してくれるのがいつもうれしくて、感謝の気持ちがあわてきます。



12月は、すっかり定番になったクリスマスパウンドケーキの製作がありました。保護者の方をはじめ、関係者の方にたくさんの注文をいただきありがとうございました。利用者さんも「大変さ」の中に「やりがい」を感じながら作業にのぞんでくれました。

これからも利用者さんの笑顔とともに、おいしいパンやお菓子を作っていきたいと思います。

生活支援員 川又 裕子

玉入れ



運動会

赤組



宣誓!



障

害物走



缶

釣り



白組



お

いしいね♪



サ ンタさん



佐 野ラーメン



行事報告

2020年の行事です。規模縮小となりましたが、衛生面に気を付けて、密を避けながら楽しみました♪



暑気払い

見て見て!



クリスマス会



ど
れにしよかなあ

水 でっぽう



真
剣



輪 なげ



せ

ー
の
!



玉 入れ



ボ

ウ
リン
グ



～福)うまぐりの里グループホーム整備検討委員会の報告～

(福)うまぐりの里グループホーム整備検討委員会は、令和元年9月7日開催の理事会において、議題「グループホーム整備検討委員会設置要綱の制定について」が全会一致で承認され、発足しました。委員は、法人理事・監事・評議員、保護者、職員から成る12名で構成されています。

開催された委員会では、入居希望者を把握し、グループホームの設置基準や人員等配置基準並びに建設資金に対する補助金等及びグループホームの必要性について協議をした結果、委員全員一致で「グループホームを設置し、工房利用者を中心に障害を持つ人達たちの自立した地域生活に寄与する必要がある」との意見がまとまりました。

その後、委員会としての意見が、令和2年12月5日開催の理事会に提出され、グループホーム整備検討委員会からグループホーム整備委員会に移行することが承認されました。

今後は、グループホーム整備委員会として、グループホームの整備に向けて具体的な検討を行っていくこととなります。1棟目の「なごみの家」と同様、仲間たちの快適な暮らしにつながるよう、努めていきたいと思っております。

検討委員・ゆーあい工房主任 川又 正久

無学文盲

令和2年、多難な年はあと残り少なくなりました。



新型コロナウイルスは世界中で蔓延し、全国でも感染者過去最多と拡大し恐れていた第三波が訪れています。この危機を乗り切れるか、不安と自粛の毎日ですが一刻も早い収束を願うばかりです。

その中で、毎月届けられる楽しみの切手が貼られた薄緑色の封筒を開けると“ゆーあい通信”が。利用者皆さんの明るい笑顔いっぱいの活動報告！

誕生会ではプレゼントを手にしたおひとりおひとりの嬉しそうな姿にこちらにまで喜びが伝わってまいります。人生の節目にあたり、その人の今後の無事と幸せを祈ってのお祝い、利用者の皆さん、職員スタッフの方々と共有されて、素晴らしい行事ですね。

四季折々のお楽しみの年間行事がコロナ禍で中止となり、利用者の皆さんはガッカリされたことでしょう。でもできる範囲で行っている社会参加活動や地域交流イベントに参加され、利用者の皆さんの生き生きとした元気な明るい笑顔には、いつも心を打たれています。人間同志の心の触れ合いが大切、重要なことだと痛感しております。

最後に、ゆーあい工房の皆さまとの出会いと、コロナ禍の感染防止で新しい生活様式に一丸となってご尽力されている職員スタッフの皆さまに心より感謝申し上げます。

うまぐりの里評議員 山下領子

～市役所での仕事を通しての学び～

市役所の相談支援センターで仕事をするようになり、早いもので7か月が過ぎようとしています。

着任したばかりの頃、「指定特定の相談員をしていたのだから大丈夫！」と言ってくれる方が居ましたが、同じ相談支援とは言っても、委託の相談支援と指定特定の相談支援ではスタート地点が違い、戸惑う毎日です。

委託の相談は、相談の経緯が本人・家族からばかりではありません。関係機関や地域の方からの相談もあります。もちろん、本人が困り感を持ち支援を望んでいる場合とそうでない場合があります。私たち相談員は、そういった相談者の話を聞き、アセスメントをし、自分なりに見立て、家族や医師・専門職などの関係機関から必要な情報や意見を頂き、協力を得ながら支援を進めていきます。

私が、委託の相談を通して学んだことは、より多くの情報を得ることで、ご本人の全体像に繋がるということ。また、他機関と連携を図りながら支援を進めることで、本人本位のその人らしい暮らしを支えることができるということです。

相談支援専門員 川島真智子

利用者紹介(中村弥生さん)

趣味と、職員との絆

中村弥生と母・光余

娘は、難病の三尖弁閉鎖症という先天性の心臓疾患を抱えています。ペースメーカーを入れて日常生活を送っております。

コロナが流行した5月。在宅支援で、ゆーあい工房の利用が一日置きになりました。自宅では、趣味の棒編みのマフラーや手縫いでマスクを作って過ごしました。自分で作った世界で一つしかない“マフラー、マスク”大満足です。

在宅支援中に自宅で過ごす日には、必ず朝夕に職員から電話が入り、「元気ですか？お変わりないですね！」の健康チェックに、深い絆を感じる事ができました。本当に有難かったです。

これからもコロナに負けないように、毎日を楽しく、工房の仲間達と一緒に、元気に頑張りたいと思います。



❁とち介のマスク
❁肩掛けショルダー



❁棒編みのマフラー

コラム「虹色のペンシル」 第6話

「ふっ」と思うこと

大阿久裕美 母:百合子



家の中で過ごすことが多くなっている今の時期、ふっと思う。

親も高齢者、娘裕美も40代の仲間入り。頭にも白髪がちらほらと。いつまで元気でいられるのだろう。ため息が出る。まだまだ手がかかるのに…。

いろいろな事が少しずつ出来るようになり、少しずつ前に進んで来た。でも最近は出来なくなっているようにも思える。年のせい。私のせい。

私が病気になった時など、ポーっと活気もなく笑顔も減っていったように感じた。

工房に通わせなければと気を奮い立たせ、朝送り出す事も多々。頑張ろうと思うが、あっち、こっち私の体は壊れかけている。

裕美は工房の先生方に助けられ、お手数をかけながら日々を過ごし、年を重ねてきた。工房大好き！！と言って、ほとんど休む事なく通ってくれる子に導いて下さった事、本当に感謝です。

娘が工房に通っている間は安心して時間をすごせるのもありがたく、工房での保護者ボランティア活動も、私には一種の薬になっていると思う。

私の笑顔が裕美の笑顔に！裕美の笑顔が私の活力に！と。

そして今日も平穏に…と願ってしまう今日この頃です。

「つぶやき」 生活支援員 佐々木竜也

私たちの生活様式が一変してからもうすぐ1年になります。私は当初、日本に大きな影響はないだろう、すぐに収まるだろうと、他人事のように考えていましたが、夏になり、秋になり、冬を迎えた今も、勢力が弱まる気配が見えず、外出や会食を控える、マスクを常に着用するなど、これまでに経験したことのない制限、我慢が続いています。

そんな最中でも楽しい事ができないか、新しい趣味を見つけてみようかと思い、自粛生活の中で色々な事を始めてみました。続かなかったものもありましたが、今では趣味になっているものが、キャンプ飯です。実際にキャンプ場には行けなくても、自宅の庭でキャンプグッズやスパイスなどを使って料理をしたり、バーベキューをすることにハマっています、自由に出かけられる生活に戻ったら、1人でキャンプにも挑戦してみたいと思っています。

みなさんは、自粛生活のなかで、どんなことを楽しみながら過ごしていましたか？

新型コロナ感染症包括支援交付金事業を受けて

現在生存している国民のほとんどが初めて経験したと言われている、まさに未曾有の出来事に直面した令和2年。近年は、国内のあちこちで地震や暴風雨等の自然災害が多く続いており、台風19号で栃木県内が広域に亘り水害を受けたのもまだ1年数ヶ月前のことです。

その上に、世界規模で広がっている「新型コロナウイルス感染症」は、人々の命や健康そして日常を奪い続けています。いつになったら収まるのか。その脅威は語り知れず、私共の事業所ゆーあい工房におきましても、長期戦となっている感染症予防対策に職員・利用者ともに、疲れが見え隠れしているのも否めません。

ですが、私達は仕事を投げ出すわけには行きません。今関わりのある皆さんと楽しく時を過ごせる近未来に想像を膨らまし、もうしばらくの辛抱と頑張っていこうと思っております。

さてこの度、国の「新型コロナ感染症包括支援交付金事業」を活用し、それぞれの事業で感染症予防のための器材や備品などを整備することができました。主には、オゾンの除菌殺菌装置や除菌噴霧器、手指自動消毒器を設置し、ソーシャルディスタンス確保のために会議用テーブルを増やし、また、各職員には慰労金5万円が支給されました。今後は、GHに簡易居室として使用する「コンテナハウス」を建てる予定となっております。

これらの器材や備品を活用しながら、利用者と職員、それぞれの家族の健康を守っていく所存でありますので、皆様には今後ともご協力の程、宜しくお願いいたします。

ゆーあい工房施設長

GHなごみの家管理者 中村 君枝



玄関には、自動消毒器とともに毎朝検温記録を行い、来訪された方全員に「来訪者検温記録表」に記入いただいています。右の写真がオゾン除菌脱臭の装置になります。



コロナに
負けない!
栃木県



なごみの家の大型噴霧器



ゆーあい工房の各部屋に除菌噴霧器が設置されています。



コロナに負けず、これからもうまぐりの里は元気に活動していきます！！